

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------------|------------|--|
| 事業所番号 | 3771700907 | | |
| 法人名 | (株) 旭看護婦家政婦紹介所 | | |
| 事業所名 | 旭グループホーム | | |
| 所在地 | 香川県三豊市高瀬町上高瀬5388-262番地 | | |
| 自己評価作成日 | 令和 5 年 10 月 12 日 | 評価結果市町村受理日 | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様との関わりを大切にしたい。この場所で本当に寛いで頂き、その方々の集大成を支援させて頂きたい。又、訪問される方々にも、又訪ねたいと、思っている場所でありたいと、スタッフ一同、一丸となっはげんでいる。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3771700907-00&ServiceCd=320&Type=search |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|------------------|
| 評価機関名 | 有限会社アウルメディカルサービス |
| 所在地 | 岡山市北区岩井2丁目2-18 |
| 訪問調査日 | 令和 5 年 10 月 19 日 |

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営理念にある、【利用者が家族として楽しく、幸福な日々が送れる様にお手伝い】を目指している。管理者は、「グループホームは、仕事をしに来ているのではなく、生活の一部となっている」と答えてくれた。午後のおやつタイムの際には、リビングで利用者と一緒にお茶を飲みながら、たわいもない会話が弾み、それがやがて自然と職員の意見交換へと繋がっていく。その日には、利用者の通院の付き添いがあったが職員の対応により、スムーズに通院ができ、買い物もして満面の笑みで帰宅された。利用者は1日をリビングで過ごす時間が多く、午前中は「青い山脈」、「お正月」、「ふるさと」を職員と一緒に熱唱していた。午後からは、30分の体操タイムがあり、三豊市限定のいきいき体操が始まると、利用者が立ち上がって元気よく動かれている。職員・利用者は共に、家族のような関係で接しており、食事やレクリエーションの時に、いつも座っている席に人がいなかったら、利用者が〇〇さんがいないと気づき、「どこに行ったん？」と職員に尋ね、「今、〇〇してますよ」と答えると安堵の表情を浮かべる。管理者は、アットホームな雰囲気を大切にしている、それが職員や利用者にも伝わり、施設全体が温かい雰囲気で包まれていた。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|--|---|----------------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 自分たちが考えた理念を掲示し毎朝当日スタッフで奉唱し、実現実行に取り組んでいる。 | 理念はリビングと玄関前に掲示している。会議でアンケートを取った上で、職員間で吟味して理念を作成し、「家族」や「地域」を大切にしたいが込められている。朝礼時の申し送りの際に、読み合わせをしている。職員には、理念が浸透していると管理者は自信を持って答えてくれた。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | コロナ期以前は日常的に、交流出来ていたが、現在は必要最小限の付き合い方になっている。 | 敷地内の大きな庭で、ふれあい祭りを開催した。国会・市議会議員の方、他施設の職員、地域の方々に参加し、大正琴やエーサー、日本舞踊やマツケンサンバの演奏会で盛り上がった。今年の冬にも、セラピーや大正琴の演奏が行われる予定である。 | コロナ終息に向けて、今後の地域交流を模索してほしい。 |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 認知症の方の御家族様の疑問、悩み等に対する相談相手をかっている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 現在は書面にての”運営通信会議”であり手紙、TELにての意見交換会となっている。 | 現在は、書面開催で再開に向けて準備中である。介護保険課、家族代表、自治会長、民生委員、元市議会議員の方が参加していた。会議が開催されていないので、家族の方が直接施設へ訪問し、意見を頂いている。再開を心待ちにしている意見が多く上がった。 | 運営推進会議では、様々な意見を聴取してほしい。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 市役所へ極力足を運び、又はTELにて連絡をとりあって、協力関係を構築している。 | 市町村との窓口は管理者。メールやFAXで連絡が来るが、直接出向いたり電話で連絡することで、face to face の関係が大切だと考えている。直近では、実地指導についての相談・報告を行った。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | スタッフ間相互の意見交換を密にし、当日担当者相互に毎日話し合い、家族様方々と連携しながら取り組んでいる。 | 身体拘束はしていない。毎日の生活の中で、メモを取り、利用者一人ひとりの現状を把握して、身体拘束に当たるかどうかの確認を行っている。出た意見は職員間で共有できるように、管理者がまとめ実践している。虐待や言葉掛けには細心の注意を払い、利用者の尊厳を損なわないように配慮している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | コロナ期以前は、研修等に積極的に参加し、職員会議時に発表し、共に学び共に考え合い乍ら、実践していたが、今は、日々相互に話し合い乍ら、実践している。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 当初期に”自立支援制度”利用の方がご入居の際研修参加したりして知識を得たり、当時担当の司法書士さんが今も相談に乗って下さる。又情報を下さる。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 予約時、契約時に充分説明し話し合い、納得の上で契約している。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族様方、来訪時に充分話し合い、スタッフには管理者が説明指導している。 | 管理者はコミュニケーションを大切にしている、家族の方と話をするのが楽しみで、施設に訪問してくれる人も多く、いつも賑やかである。意見は、面会時や電話にて聴取している。利用者が食べたい物や必要な物があれば、家族から持って来て頂けることも多い。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | ”おやつ時間”時、寛ぎと話し合いの場としている。スタッフ相互の仲介は管理者が行う。 | 職員間の連携も素晴らしく、緊急の病院対応にも連携がしっかりと取れていた。管理者は職員のことを第一に考えていて、「立場は皆と同じだ」という気持ちで接している。おやつタイムでは、職員間で意見交換ができる貴重な場となっている。当日の役割分担は、その日の出勤職員で話し合っ決めていく。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 顧問社労士と相談し乍ら、努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|----|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 研修は極力参加し、全員が受講出来る様、計らっていた現在は、“コロナ自粛”である。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | コロナ以前は行事毎に他施設訪問、来訪の交流を行っていた。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 常時対話しながら、本人の想いを聞き取り、生活に反映するようにつとめている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 当初より、密に対話し乍ら、ご家族が話しやすい様に寄り添っている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 早急に、ニーズを見極め“歯科医師”“セラピスト”等導入し、対応している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 共同作業を工夫し共に意見交換しながら作品づくりする機会を提供し共に行う機会を日常的に持ち仲間意識を持つようになっている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族方々が気軽に当方を 出入りし易くしスタッフとの、連携を深めている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | コロナ期以前は日常的にかつてのご近所さん、同級生、が気軽に訪問し、スタッフとの交流も日常的にあった。 | 面会時には、家族の方と和気藹々とお茶を飲んで楽しんでいる。福祉用具の業者の方とも仲が良く、今ではすっかり馴染みの関係となっている。リビングの窓を開けると目の前には大自然が広がり、外気に触れることが癒しとなっている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 共同作業(季節の作品づくり)を折々に話し合い乍ら利用者相互の連携支援をしている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 当初からの御家族様が今だに、訪問、談笑して。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 当方所有の空地の清掃整備、草刈等のお手伝いして下さる。 | 職員はコミュニケーションを大切にしているので、利用者は普段からの会話で意見を出しやすい。手芸が好きな方がいて、管理者と一緒に材料を買いに行き、座布団や亀のストラップを作ってくれた。あまり言葉を発しない方へは、表情や仕草から読み取るように工夫している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 本人、家族、病院、施設、自宅のご近所さん達からの情報を上手く把握できている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---------------------------------------|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 暮らしを共にする時間を多くとり、現状把握につとめている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 家族とは、とにかく、よく話し合い、現況をお伝えし希望を伺い、反映している。 | 介護計画は、入所時に家族の方とよく話し合いをして決定し、2ヶ月後に見直す。何かあればその都度、見直しをして利用者にフィットした介護計画にしている。普段からのモニタリングを大切にしており、利用者がより良く暮らせるように支援している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 記録、口頭により、情報交換をしっかりとこない。対応し、柔軟に対応する。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 歯科訪問診療、セラピー療法導入。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 習字教室、大正琴教室、近隣の講師のボランティアさんによる。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 受診は救急に関わらない限り、当方にて、通院介助をおこなっている。 | かかりつけ医は、入居時に転医される方がほとんどで、24時間365日体制で診ていただけ、安心出来る体制となっている。管理者は、医療体制の協力が無いと仕事が成り立たないと言うくらい信頼を寄せている。訪問歯科も週1回来てくれ、咀嚼が健康の源として歯科医に頼っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|-----------------------------------|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 情報、記録等の伝達、連絡は細かく行う。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 病院関係者との、連携は“あうんの呼吸”である。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 終末看取りはご家族と医師と当方にて、相談をしている。 | 看取りは可能で、入居時に同意書を交わしている。ドクターも看取り期に差し掛かると、すぐに施設に駆け付けてくれ、安心した看取りが行える。居室へ入る際には、防護服着用や抗原検査を行い、安全面に配慮しながら無事に看取りができた。デスクカンファレンスを開催し、記録を振り返り、意見を出し合うことで次に活かせるようにしている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 救急訓練はうけている。(実践に効果があり、ますます充実させたい。) | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 消防署との連携で訓練を実施している。 | 年2回、火災訓練を実施。利用者はヘルメットを被り、首にタオルを巻いて、一緒に玄関まで逃げる訓練を行った。廊下に避難経路、事務所に連絡網を掲示している。備蓄は、食料を1週間分確保し、期限間近の物は全員で食した。停電に備えて、蓄電池や石油ストーブも備え付けている。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 職員相互の連携の中に注意、意見交換しながら対応している。 | 呼称の基本は苗字に「さん」付けで呼んでいるが、家族や利用者が希望する場合は「〇〇ちゃん」と呼ぶ場合もある。入室する場合は、「〇〇さん」と言葉掛けをし、ノックをして声掛けするなど、プライバシーに気を遣っている。会議の際には、周りに聴こえないような声のトーンで話している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 聞き取りを細かく行う事により、対応している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 本人からのききとりにより、その都度対応している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | その日その日の、本人の意向をくみ取り乍ら担当者は配慮、している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 各人の嗜好品を聞き取り、反映している。 | 3食すべて手作りで、残食はほぼゼロ。冷蔵庫と相談して、その日の調理担当職員が手際よく作業を行っている。職員・利用者は「ここの食事は美味しいです」と自信を持って答えてくれた。行事食や旬の物だけでなく、正月にお節料理、クリスマスや誕生日にはケーキを提供して季節感を味わって頂いている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 記録を共有し支援に反映している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 食事の度にスタッフが付き添い、定期的に歯科医師による口腔ケアが実施されている。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 各部屋の自分専用トイレなので、支援し易い。 | 各居室にトイレが設置されていて、安心して排泄ができています。排泄チェック表も活用して、申し送り時に確認をしている。排泄失敗時には、羞恥心に配慮した言葉掛けをしたり、話を逸らしたりして、お風呂に連れて行ったりする。紙オムツの方が多く、パット交換で対応することもある。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 食事の素材の配慮、メニュー、本人の嗜好等配慮している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | この問題はむづかしいです。 | 週3回の提供。お湯が汚れている時は、その都度清潔にしている。入浴を拒否される方へは、一度放置すると、自分から「お風呂へ入らない」と自ら風呂場へ行かれる。入浴ができない方には、清拭と足浴を行っている。季節湯として、ゆず湯や菖蒲湯の提供もしている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 自分の想いのかなう様支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬に関しては、各員が、把握しており、記録により、申し送り、伝達を実施し、把握につとめている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 行事日の趣向、日々、各人の楽しみごとが実現出来る様、支援している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 現在は外出自粛している。敷地内さんぽにて、気分転換している。 | おやつ後に、毎日30分の体操時間を設けていて、三豊市いきいき健康体操が好評で、利用者は立ち上がるくらい体を動かしている。通院時には、遠回りをして、ドライブ気分を味わい、春には桜、秋には紅葉を楽しんでいる。希望者は、大日峠へのお参りも兼ねて散歩をしている。評価当日には、通院の帰りに買い物へ行かれた方もいた。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | この問題はむづかしい。(幼稚園のこどもじゃない) | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 受ける事は出来るので、支援しているが、本人からは全員、今の方々は無理である。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | エントランスで空間利用して、展示物(写真等)等に気配り配慮している。 | リビングでは、「青い山脈」、「お正月」、「ふるさと」を利用者が声高らかに、また職員もそれに連なって元気よく歌っている姿を目の当たりにした。一緒に暮らす猫が利用者の周りで戯れ、猫との生活が癒しとなり、一緒に寝ることもある。壁面には、利用者と一緒に作成した作品が多く飾られている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | エントランスで、談笑出来る、設定をしている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | その人、その人の、家族と各人部屋づくりしている。 | 備え付けは、エアコン、カーテンで、洗面台、トイレ、ベッド、押し入れ。部屋によっては、テレビ、タンスが備え付けられている部屋もある。壁面には思い出の写真や誕生日の色紙が飾られていて、利用者の笑顔の姿が窺えた。1日をリビングで過ごす方が多く、午後にお昼寝で居室に戻られる方もいる。職員が毎日清掃しているので、清潔さが保たれている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | ほぼ出来ている。 | | |

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|---|-----------------------|----------------|----|---|-----------------------|----------------|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいの | | | | 2. 家族の2/3くらいと |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいの | | | | 3. 家族の1/3くらいと |
| | | | 4. ほとんど掴んでいない | | | | 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように |
| | | | 2. 数日に1回程度ある | | | | 2. 数日に1回程度 |
| | | | 3. たまにある | | | | 3. たまに |
| | | | 4. ほとんどない | | | | 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが | | | | 2. 少しずつ増えている |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが | | | | 3. あまり増えていない |
| | | | 4. ほとんどいない | | | | 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが | | | | 2. 職員の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが | | | | 3. 職員の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない | | | | 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが | | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが | | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない | | | | 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが | | | | 2. 家族等の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが | | | | 3. 家族等の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない | | | | 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28) | | 1. ほぼ全ての利用者が | | | | |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが | | | | |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが | | | | |
| | | | 4. ほとんどいない | | | | |